

～ 〈 3.11 以 降 〉 読 書 会 を 進 め る に あ た っ て ～

【この読書会が目指すこと】

- ・ 他 人 は 自 分 と は 異 な る 仕 方 で 物 事 を 見 、  
考 え 、 評 価 し 話 す こと、このことを経験する。
- ・ さ ら に は 単 に 「 他 人 と 自 分 は 違 う 」 こと を 理 解 し て 終 わ る の で は な く 、 「 他  
人 は 自 分 と ど う 異 な る の か 」 を 理 解 す る  
こ と を 目 指 す 。 — — こ れ が 、 自 分 ( と 相 手 ) が 変 わ る き っ か け に な る 。 そ の た め  
の 「 対 話 」 。

【対話とは何か？】

○対話とは何でないか。

- ・ 「 討 議 」 : 自 分 と 他 人 の 意 見 、 ど ち ら が 正 し く ど ち ら が 正 し く な い か を 決 め る た  
め の 言 葉 の や り と り で は な い 。
- ・ 「 雄 弁 術 」 : 自 分 の 意 見 を 相 手 に 納 得 さ せ る ( 「 御 理 解 頂 く 」 ) こ と を 目 的 と す  
る 言 葉 の や り と り で は な い 。 そ も そ も そ れ は や り と り に な っ て い な い 。

・・・いずれも (1) 相手が自分と同じ意見になることを目指し、(2) 自分の意見は正しいという前提に立つ。

⇒対話はこのどちらも否定する。

○対話とは、自 分 と 相 手 が 異 な る こ と を 前 提 と し 、  
対 話 の 過 程 で 自 分 も 相 手 も 変 化 し て い く こ と  
を よ し と す る よ う な 言 葉 の や り 取 り 。

なので、

- ・ 他人が自分と違うことを言っている、自分が他人と違うことを言っても、それは「波風を立てる」(悪い)ことでもましてやケンカを売ることなどではない。
- ・ 他人に間違いや矛盾を指摘されても、他人の間違いや矛盾を指摘しても、ここは対話の場なので、それは相手に負かされることや相手を負かすことを意味しない。

- だから逆に、「あくまで私はこう思います」と、主観的・個人的な意見であることを強調する必要もない。（ほんとうに主観的な感想を求められて述べる場合は別だけど）

【具体的には】

○質疑応答について

- 発言者にたいして「もうすこし詳しく」、「それはどういうことか?」、さらには「もう一度同じことを言ってもらえませんか?」とどんどん尋ねてください。  
⇒こうした質問は、相手の言っていることが間違っていると思って投げかけられるのではない。純粹にその発言を「も う と よ く 理 解 し た い 」 から 投げかけられる。
- しかし自分の言っていたことが、他人からあらためて尋ねられた途端に分からなくなることは多々ある。  
⇒会議のプレゼンでこうなったらマズいかもしれないけど、この読書会ではまったく問題ない。それどころか「自分が当たり前だと思って言ったことが他人に伝わらない」という体験は自らに反省を促す貴重な体験であるとさえ言える。

○ファシリテーターについて

- 読書会のファシリテーターは教授ではないしそもそも分野の専門家でもないので、対話の内容に関して他の皆さんより優位にあるわけではありません。トランプでいう「親」のようなものとして捉えてください。「親」はトランプを配ったり、集めたりしてゲームの用意をしますが、ゲームそのものにはひとりのプレーヤーとして参加します。

○対話フェーズについて

- もちろん、先程述べた「対話」のイメージを忘れずに。
- さらにこれは「読書会」の最終段階なので、通常のでつがくカフェとは少し趣が異なります。
  - 本の中で出てきて、皆でその意味を確認した術語は使っても構いません。
  - 対話の流れのなかで、必要とあれば課題本に戻って、さらには音読することもあるかもしれません。（なので課題本は持ってきてください）